

懇話会「情報と行動」

『命を守るために・・・情報と避難行動の橋渡し ～ RMO ができること ～ 』

2020年11月20日

中田 準一

1. 情報と行動について

情報手段が多様化し、SNS を含めさまざまな情報が発信されているが、「避難しなければならない情報」は如何にあるべきかが問われている

■避難情報と行動の事例

- ① 稲むらの火：
1854年 南海地震 紀伊國広村の実話 小泉八雲が物語化 教科書
- ② コミュニティーが人命を救う：
阪神淡路大震災 1995 北淡町 村民全員救助
- ③ 長野の半鐘打ち続けることで全村避難
- ④ 真備町（長沼地区でも同様）で「避難しなければならない情報とは」が問題
- ⑤ 武蔵小杉タワーマンション水害：
19号台風 2019 47階640戸 内水氾濫 B4貯水槽からB3電気室が浸水 停電
水害対策に取り組む タイムラインを作成し、訓練 住民の連帯

■避難情報をいかに命を守る行動に橋渡しをするか。

(情報)

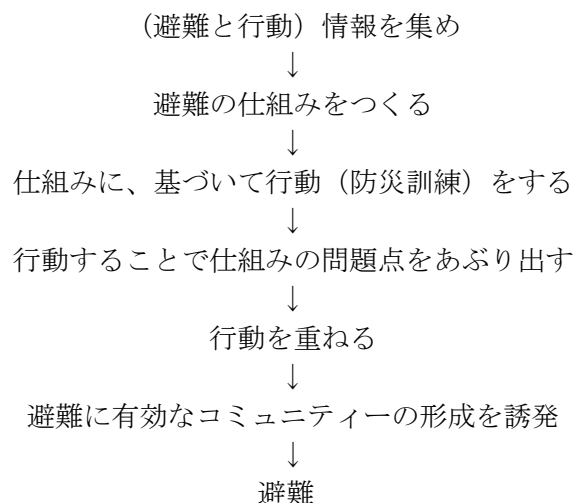
- ・避難スイッチをどう入れるか : 避難情報をタイムラインに組み込む
- ・避難の際の混乱を避けるには : 災害情報を共有する

(行動)

- ・行動可能な行動をどう引き出すか : たとえば、2人で逃げるしくみ
- ・どこに逃げるか : セカンドベストの設定

■RMO(専門家集団)のなすべき役割は、啓発活動にある。

情報を避難に結び付けるには



2. 意見交換（リモート形式）

懇話会で披露された課題

- ・避難訓練する行動自体を引き出すことが難しい。
→行動に移す事例を集め、行動に移す手順を組み立てる。
- ・避難することを個人判断にゆだねることに限界がある。
→地域コミュニティーで対応する仕組みができないか。
- ・水害は逃げる場がない。→ではどうするか。

意見交換

- ・①防災について知らない人が多いので、防災を知る人を増やす。（元消防庁職員）講演（木村）
- ・②避難について、自分のためだけではなく、みんなのために逃げる。（消防庁関係者向け講演会においての、新原芳明・呉市長（東大〈法〉卒、元／大蔵省官僚）の発言）
- ・練馬区では災害ボランティアを要請している。（根岸）
→RMOとして協力できるのではないか。
- ・災害レベルを個人判断の避難行動～公的判断の避難行動にどう組み込むか
- ・情報と行動を結び付ける仕組みにおいて、情報の信頼性が不可欠。行政の情報は信頼性が高い。（栗田）
→行政庁の災害関連情報を収集し、その結果を検証して問題点を洗い出し避難行動を誘発する情報発信のあり方を整理し提案する。
- ・災害弱者（高齢者・要介護者・子ども等）の避難をどうするか。
→災害弱者情報の収集及び取り扱い方について研究する。
- ・災害弱者の避難については地域コミュニティーのあり方が鍵。
- ・個人判断だけの避難は限界がある。
→避難支援をどうするか。避難支援の仕組みを提案する。（根上）
- ・避難行動に移す情報の出し方がポイント（アンケート・岡山県危機管理課）（郡山）
→信頼性の高い役所の情報をどう行動に結びつけるか
- ・避難するにあたって、持っていくもの準備している間に逃げ遅れた。（NHK テレビ報道）（郡山）
→タイムラインを整備する。
- ・防災用語が理解されていない：①指定避難所／避難場所・②避難勧告／避難指示の違いが判らない人が多い。（庫川）
→災害に関する情報を一般の人達に分かるように再整理し提案する。
- ・判断して指示できる行政はない。避難はコミュニティーで行うしかないのではないか。台東区で荒川氾濫危険が迫った時、自己判断で避難した（吉田）
→避難のためのマイタイムラインをつくる参考となる事例を集める。
- ・避難情報がわかりにくい（木村）
- ・避難情報・気象情報の変遷の解説（上野）
→住民の避難行動を促すために、呼称の変更、新たな情報、警報の追加がなされてきたが、住民に理解されていない。警戒レベル5、特別警報には「あなたは既に逃げ遅れている」等の強い口調が必要ではないか。
→最新の避難情報を避難行動に結びつけるタイムラインを住民個人が組み立てる。
- ・コミュニティーの重要性
→地域ごとの避難スイッチをつくる←RMOの役割
個人の避難スイッチ・地域の避難スイッチを合わせ持つ避難スイッチを作成する。
- ・防災を知っている人を増やす←RMOの役割
- ・避難情報を行動に結びつけるには、公的に対処する必要がある。

3. 勉強会を今後どうするか

- ・防災に関心のある人たちが、自由に参加できるリモート会議の方法を見つけ広める。
- ・災害事例（情報と行動）を集め、一般の人他にも理解できるように情報として整理する。